

## 福岡市教育センター G 研研究主題 「書き出し、書き表す力を育てる作文指導法の研究」

## 第4学年 国語科学習指導案

## 1. 単元名

全校のみんなに伝えよう  
「学級紹介新聞を作ろう」

## 2. 指導観

- 中学年で身につけさせたい書き出し・書き表す力

- |  |
|--|
| ○ 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考える力          |
| ○ 書こうとする事を中心を明確にしなが、段落と段落との続き方に注意して書く力 |

- 本学級の子どもたちの実態

本学級の児童は、1学期教材「お元気ですか」で手紙文を書く学習を行っている。手紙を書く際の前書きや後付けなどのきまりを知り、書きたいことを中心を明確にし、段落と段落の続き方にも気を付けながら手紙文を書いている。読みの学習「ツバメが住む町」においても、形式段落から意味段落を考えながら読みの学習を行っており、文章全体を大きなまとまりの構成面から考える学習経験もある。「新聞記者になろう」では、伝えたいことを新聞にまとめ、3年生へ伝えようという学習意欲をもち、自分で話題を選び（選材）、新聞をグループで1枚に構成して仕上げる学習を経験している。2学期単元「グラフをもとに」では、グラフから分かったことをまとめて書くときに、始めに自分が言いたいことの大体を書き、後でくわしく書いていく学習を経験している。

以上のように、「書く」学習のみでなく、「読み」の学習においても「段落相互の関係」を意識した学習を繰り返し行ってきた。しかし実際に書く場面になると、段落を意識せずにだらだらと書いてしまったり様子を詳しく表現していなかったりすることが多く見られた。

本学級の児童たちは、4月から週に1～2回程度家庭学習で日記を書いている。その日の出来事の中から印象に残ったことを豊かに表現できている児童は少数で、「～しました」を繰り返し、具体的に何が楽しかったのかも述べず「楽しかったです」と結ぶ児童が約半数いる。また、ほとんどの児童は係活動の新聞作りを非常に好み、休み時間などを使って黙々と書く姿が多く見られる。

児童に対するアンケートを行った結果、以下のような答えが返ってきた。

1 国語の中で、好きなものに○をつけてください。(複数回答可)	27名中
話す・聞くこと…12人	書く…18人 読む…11人
2 あなたは、文章を書くことは好きですか。いずれかに○をつけてください。	
(好き…11人 どちらかというとき好き…10人 どちらかというとき嫌い…6人 きらい…0人)	
その理由を教えてください。(複数回答可)	
書くことで、みんなに知らせることができるから 6人	書くことがなかなか決まらないから 3人
書くことがすぐに決まるから 4人	どのように書いたらいいのかわからないから 3人
出来事やそのときの気持ち、自分の考えなどを書くのが楽しいから 15人	いいことがよく伝わるような文が書けないから 4人
書いた後読んで、もっとよきしようと工夫するのが楽しいから 8人	書いたあとに間違いを直すのがめんどろうだから 0人
(その他)	(その他)
書くことがどんどん頭に浮かぶから みんなで見合うのが楽しいから	きたない字になると消さないといけないから
みんなに喜んでもらえる文章を書きたいから みんなが喜んでくれるから	
できた文を読めるのが楽しいから 文章を書いたら本がスラスラ読めるから	
3 あなたが文章を書くときに、「むずかしいなあ」と思うのはどんなことですか。(3つまで)	
読む人に伝わるように正しく書くこと 18人	その他
書くことを探したり、探した中から書くことを選ぶこと 8人	どういうことを書くかわからない
段落と段落の関係を考えながら書くこと 14人	書く順番がわからない
書こうとする事を中心をはっきりさせて書くこと 13人	大切なことを落とさずに書くこと
書いた後に、文章のよいところを見つけたり、まちがいを見つけて直したりすること 12人	聴写をすること

アンケートの結果、本学級の児童は「書くこと」が好きである傾向が強いことが分かった。その理由として「出来事やその時の気持ち、自分の考えなどを書くのが楽しいから」が一番多かった。しかし、選材、構成、記述、推敲の各段階について難しいと多くの児童が感じており、特に記述について難しいと感じている児童が多いことが分かった。

また、児童は朝のショート的时间を使い、以下のような「書き慣れるための学習」も行っている。

書き慣れるための学習	
視写…教科書を見ながら書く 1回3分目標100字 「ツバメが住む町」「手と心で読む」「ごんぎつね」	
聴写…教師が話した内容をそのまま書く 話は1回 100字程度の文章	
暗写…前日に暗記する宿題 50～100字程度 「ツバメが住む町」「手と心で読む」「ごんぎつね」	

以上のことから、本学級の児童は、次のような実態であると考えられる。

- 多くの児童が書くことは好きであるが、書くことだけに満足している傾向がある。
- 書くことは好きだが、読み手にとって分かりやすい文章を書くことに難しさを感じている。
- 日記や係活動新聞など、学級内での交流にとどまっておき、外部に発信した経験は少ない。

そこで、書くことの楽しさをもっと実感させ、どのように書いたら読み手に伝えたいことが詳しく正確に伝わるのか、構成、記述の段階に練習学習を取り入れて書き出し、書き表す力を付けさせたいと考えた。

#### ○ 本教材の価値

本教材は、「学級紹介新聞作り」に向け、グループでよりよい新聞を作るため、個々が自分の担当する記事を上手に書きたいという意欲をもち、アンケートから分かったことを適切に文章化するために、練習学習を生かしながら書いていく学習である。

児童たちは、「グループで新聞を書く」という活動を好み、また数多く経験してきているため、同様の設定をすることで、児童は意欲的に学習に参加できると考える。

児童には、4年1組のことを全校のみんなに知ってもらおうと呼びかける。「4年1組はどんなクラスか?」と問うと、「元気がいい」「仲がいい」「明るい」「がんばっていることがある」など漠然とした答えが予想される。それら漠然としたものを説明していく具体的な例が個人が新聞に載せる記事となる。例えば「4年1組がんばってる新聞」を書くということにまともれば、次のような記事が考えられる。

#### 【「4年1組がんばってる新聞」に載せる記事の例】

「運動会に向けて」 「係活動の工夫」 「発表をたくさんしよう」 「忘れ物をなくそう」  
「もくもく、きびきびそうじ」 「毎日の音読」 など

以上の中から自分が書く記事を選ぶ際には、学級全体にアンケートをとり、その集計から分かったことを記事にしていくということを確認する。つまり、記事を書く個人の主観や好みで記事を書くということではなく、学級全体の意識調査を重視し、分析して考察を加えるという、説明文を書く学習であることをここで確認したい。

本単元では、グループで1枚の学級紹介新聞を完成させるという設定にしている。また、グループで完成した新聞でコンクールを開くという活動も行う。することにより、これまでに書いてきた個人作文と違い、グループ内でよりよい文章を書くために協力し合おうとする意欲が生まれる。今回行うコンクールは、順位を決めることが主たる目的ではなく、グループ同士またはグループ内で作文力を高めあうことを大きなねらいとすることを児童と確認していきたい。しかし、児童の書く能力には個人差があるため、教師が個別に指導していく時間と、グループ内での話し合いの場を計画的に設定することで、児童が相互に書く力を高めていくことできるよう配慮していきたい。

#### ○ 本教材で身に付けさせたい書き出し・書き表す力

- アンケート結果から分かったことと自分の考えが明確に伝わるように、段落と段落のつながりを考える力
- 接続語や指示語を適切に使い、文末表現を考えながら説明的文章を書く力

#### ○ 書き出し、書き表す力を育てるための指導あり方

##### (導入)

まず始めに、これまでの「書く」学習をふり返る。既習学習「お元気ですか」「ツバメがすむ町」「新聞記者になろう」「グラフをもとに」から、段落と段落のつながりに気を付けて書いてきたことを確認したい。

次に、日常児童がよく書いている係新聞を見せる。また、社会で単元のまとめ新聞を書いたことや、国語で3年生に新校舎の良さを伝えるために新聞を書いたことを想起させる。これまでの新聞は学級内で読みあうことがほとんどであることを確認した後、他校の学校紹介新聞を見せる。また、本校の広報委員会が毎月配布している新聞や代表委員会便りなども提示し、高学年になると全校に向けて様々な情報を伝える機会が増えてくることを意識させる。そのための練習としてこの単元を位置づけることを確認し、クラス内の新聞から全校へ向けての新聞を書こうという意欲を持たせる。

次に教科書「生活を見つめて—4年1組生活白書」を読み、選材→構成→記述→推敲という学習の流れをつかませる。

##### (取材)

本単元では、取材を行うに当たっては教科書の内容を生かし、アンケートを作成させ、実施する。グループで新聞に何を載せるか話し合ってから決めた後にアンケートを作成するが、ほかのグループの中にも同じ

話題を選ぶ児童がいると予想される。同じ話題でアンケートをとる児童でグループを組み、作成して実施し、集計から分かったことの検討まで行う。その後の文章化は個人で行うものとし、いくつかのグループに同じ文章ができるようなことはないよう配慮する。

〈構成〉

2つのモデル(良い例と悪い例)を再度提示し、段落と段落のつながりが分かりやすい文章を書くには、取材してきたことをいかに構成するかが重要であることを、教師が例を提示して理解させる。その例をどのように構成するか全体で話し合い、自分の記事をどのように構成するか考えさせる。また、適切な接続語の使い方も考えさせる。

説明的文章は、「きっかけ→内容→アンケート内容・方法→結果→考察」という展開が一般的であるが、可能な児童にはこの文章展開を大事にしながら、読み手を引きつけるような構成の工夫も考えさせたい。

〈記述〉

構成ができれば、アンケート結果をもとに作成したグラフの提示の仕方を考えさせる。グラフの提示方法をいくつか提示し、自分が言いたいことに合うグラフの提示方法を考えさせたい。

次に、書き出しについて考えさせる。(練習1) これまでならば、「ぼくは～についてアンケートをとりました」から始める児童がほとんどであると考えられる。次のような書き出しの例を提示することで、児童一人一人が書き出しを工夫できるようにしたい。

### 〈練習1〉《書き出しの工夫》

問いかけから	「みなさんはもくもく、きびきびという言葉を知っていますか。」 「みなさんは、授業中の発表をがんばっていますか」
数字(アンケート線)から	「4月13枚、5月12枚、・・・これは何の数字でしょう。これは、4年1組の係活動でみんなが書いた新聞の合計です。」
会話から	「多くても一人1個」これが〇班の合い言葉だそうです。

書き出しができれば、続きの文章を書いていく。説明文を書くという点から、次の練習2、3、4を行い、最後まで仕上げるという手順で進めていく。

の工夫を練習する。(練習2)

### 〈練習2〉《指示語の使い方》「ツバメがすむ町」の中から

ツバメやカラス、スズメは、町なかで見られる、わたしたちになじみ深い野鳥です。なかでもツバメは、家ののき下やかべに巣を作り、人間の近くで子育てをします。

↓  
そのツバメが、わたしの住んでいる京都市内でへってきたという話を聞きました。そう言われてみると、「本当に数がへっているのか～」

### 〈練習3〉《接続語の使い方》

○ まず そして 次に また さらに このように  
(並列) また・そして(添加) しかも・それに・そのうえ(順接) すると・だから・それで・そこで  
(逆接) けれども・でも・しかし・ただし

### 〈練習4〉《適切な文末表現》

「～という結果から～ということが分かりました」「～だそうです」「～ということが言えます」  
「つまり～ということです」

児童は自分の書こうとする記事について構成はできている。書き出しは練習1を生かし、児童が選んで書いていく。また、練習2、3、4のよさを振り返らせ、自分の記述に生かせるようにしたい。また、グループで1枚の新聞を仕上げるということを再度確認し、個人の記事がよりよいものになるよう、グループでの話し合いの時間を確保する。その際には児童それぞれの記事について、どの点について話し合えばよいのか教師がアドバイスしていく。

〈推敲〉

振り返るポイントを示したチェックプリントを準備し、グループ内でそれぞれの記事を振り返ることができようにする。間違いを正すだけでなく、表現のよさを見つけ、次に生かそうとする意欲ももたせたい。

## 3. 単元目標

- 「学級紹介新聞コンクール」に向けてよりよい記事を書くために、段落相互の関係や接続語の使い方を考えたり、表現を工夫したりしようとする意欲を持って書くことができる。
- 自分の記事で伝えたいことが明確になるような構成を考えることができる。
- アンケート結果から分かったことや考えたことが正確に伝わるよう、指示語や接続語を適切に使いながら、文末表現を考えて記事を書くことができる。

## 4. 学習計画 (全14時間)

配時	学習活動	○教師の支援 ※書き出し・書き表す力育成のための支援
1	1. 単元のためあてをつかむ (1)これまでの「書く」学習をふり返る。 (2)クラスのことを知らせたい相手・内容を考え、出し合う。  めあて 4年1組○○○○新聞を作ろう	○ これまでの学習内容を教科書や作品をもとに振りかえらせる。 ○ 係活動新聞を取り上げ、学級内で見合う新聞から外へ発信する新聞を書く意欲を持たせる。 ○ 自分のクラスはどんなクラスなのか考えさせて新聞のタイトルとし、そのことを具体的に伝えるために個人で記事を書くことを意識させる。  ○ 一人一人が書いた文章(記事)をまとめて1枚のグループ新聞を完成させるという設定にすることで、よりよい文章を書く意欲をもたせる。
1	1. 教科書p32～37「生活を見つめてー4年1組白書」を読み、学習の流れを理解する。 (1)調べることを決める (2)調べ方を決め、調べる (3)調べたこと、分かったことを整理する (4)まとめたことを文章にする (5)感想や意見の交流をする	○ これまでの日記や作文の中から、事がただけを述べたり段落が整理されていなかったりする文を提示し、どのような準備・練習をしていけばよい文章が書けるか考えさせる。  ○ 教科書の内容から、これからの進め方をくわしく理解させる。
4	1. グループで新聞に載せる記事を決め、役割分担する。 2. 調べる内容・方法を決め、調べる。 (1)アンケート (2)インタビュー (3)資料やインターネット など 3. 調べたこと・分かったことを整理し、内容を3～4のまとまりに分ける。	○ 「4年1組○○○○新聞」を具体的に伝える内容を全体で話し合い、その中から個人で各記事を選ぶようにする。  ※ 「○○について」調べた内容・分かったことを教師が例として提示し、どのように整理したらよいか考えさせる。
2	1. 文章の構成を考える。 2. 自分が整理した調べたこと・分かったことを構成する。 3. 接続語の使い方の練習をする。	※ 前時に整理した話題を提示し、段落の続き方を意識しながら構成を考えさせる。 ※ 基本的な構成(きっかけ→内容→アンケート内容・方法→結果→考察)を基本とし、ほかの構成の例を提示して児童が選べるようにする。 ※ 段落と段落をつなぐ適切な接続語について考える。
3 本時	1. 書き出しの練習をする。 2. 練習を生かして自分の記事の書き出しを書く。	※ 教師がある話題を提示し、書き出しの工夫について考えさせる。(練習1)
1 /	1. 記述の練習をする。 ア 指示語の使い方	※ 指示語の使い方の練習をする。(練習2)
3	イ 文末表現の練習をする。	※ 既習学習を使い、説明文の適切な文末表現の練習をする。(練習3)
	1. 前時の練習を想起する。 3. 3つの練習を生かして自分の記事を書く。	※ 前時の練習学習を想起しやすいよう、観点別の札を教室に掲示しておく。
2	1. 文章を最後まで書き終える。 2. 書き終えた文章を見直す。	※ 主述の関係や誤字脱字などの間違いがある文章を読んで気づいたことを出し合い、自分の文章も同じ観点で振りかえることができるようにする。
2	1. 個人で書いた文章を持ち寄り、新聞にどうまとめていくか話し合う。 2. グループで新聞にまとめる。	○ 割付(レイアウト)に関しては教師が例をいくつか提示して選ばせるようにする。
裁量	1. 4年1組新聞コンクールを開く。	○ 書き出しの工夫や適切な表現に目を向けさせるような投票用紙を用意し、話題のおもしろさや見た目投票させないようにする。

5. 本時 平成16年10月14日(木)

6. 本時目標

- 2つのモデルの比較から、書き出しの工夫について理解することができる。
- 練習学習を生かして、自分の書き出しを工夫することができる。

7. 本時指導の考え方

前時までに児童は、自分が新聞に載せる記事についてのアンケート結果から分かったことを整理し、構成した内容を書き出している。どのような書き出しをしたのか出し合ったところ、どれも似たような書き出しであった。そこで児童は、読み手の興味を引くような書き出しをするにはどんなことに気を付ければよいのだろうかという課題をもった。

「ぼくは、4年1組が〇〇ということについて、〇〇のアンケートをしました。」  
 「わたしは、4年1組が本当に〇〇なのか、アンケートをとりました。」

本時は、読み手を引きつけるための書き出しの工夫を考え、練習学習をしたこと生かして自分の書き出しを書く時間である。

そこでまず、「給食について」という話題で、アンケート結果とグラフを提示し、それをもとに書かれた文章を提示する。この文章は、前時に児童が課題としたような書き出しから始まるものとし、どのような書き出しに変えていけばよいのかを考えさせる。そして次に以下のような3つの書き出しを提示し、書き出しのポイントとしてまとめていく。

書き出し文の例	書き出しのポイント
みなさんのクラスでは、毎日給食を残さないような努力を <b>していますか</b>	①問いかけの文にする
「9月は20日、10月は21日」これは、私たち4年3組が給食を全部食べた日の数です。	②数字を使う
「 <b>毎日完食!</b> 」4年3組では、この言葉を合い言葉にして、毎日給食を全部食べるようがんばっています。	③キーワード(大切な言葉)を始めに書く

以上のように、書き出しの3つのポイントを理解させた後、違う話題「図書について」で書き出しの練習を行う。ここでは、アンケート結果とグラフのみを提示し、その中から問いかけをしたり、数字やキーワードを使ったりして書き出しを書いていく。書き出し文は1～2文とし、できるだけ多くの書き出し文を考えて書くよう指示する。そして児童が考えた書き出し文を、3つのポイントに沿って発表させていく。同じ問いかけでも、「～を知っていますか」「～をどう思いますか」「～していますか」など、様々な文末表現が考えられるため、いろいろな視点から書き出しを考えさせていきたい。

最後に、このような書き出しの練習を生かして、自分の話題で書き出しを考えさせる。アンケート結果の中からどのようなことを、書き出しの材料とするか困難な児童が見られると予想されるため、教師は児童のアンケート結果を予め把握しておき、机間指導中に適切な助言ができるようにしておきたい。

児童は、以下のような書き出しを書くであろうと考えている。

- |           |   |
|-----------|---|
| (そうじグループ) | ・ みなさんはもくもく、きびきびという言葉を知っていますか。  |
| (忘れ物グループ) | ・ みなさんのクラスには、そうじの合い言葉がありますか。  |
| (発表グループ)  | ・ 27個、これは何の数字でしょう。実は、2学期始まってすぐの、4年1組の忘れ物の数です。                         |
|           | ・ 「多くても一人1個」これが〇班の合い言葉だそうです。これは、忘れ物をなくそうという4年1組の取り組みで、〇班の人が言っている言葉です。 |
|           | ・ みなさんは、授業中に何回ぐらい発表していますか。  |

学習のまとめとして、児童の書き出しをプロジェクターで投影し、全体でそのよさを認め、広めていく。また、次時は書き出し後の記述の仕方について考えながら自分の文章を書いていくことを確認したい。

【検証の視点】

- 児童は、2つのモデルから書き出しのポイントをとらえることができたか
- 話題を変えて、3つのポイントを意識した練習をしたことは有効であったか
- 児童は、自分の書き出しの記述の中に、練習学習を生かすことができたか

## 8. 本時の展開

学習活動	○教師の支援 ※書き出し・書き表す力育成のための支援
1. 本時のめあてを確認する。	○ 前時の課題から、本時は書き出しの工夫について考えていく時間であることを確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           本時のめあて いろいろな書き出しを考えて、自分の記事に生かして書き出しを書こう         </div>	
2. よいモデルと悪いモデルを比較し、書き出しの工夫を考える。 (話題「給食についてのアンケート」) ア アンケート結果とグラフをもとにした新聞記事(モデル①)を読み、書き出しについて考える。 イ 3種類の書き出し(モデル②)を読み、書き出しの工夫を捉える。 <b>【書き出しのポイント】</b>	※ アンケート結果やグラフから分かること・筆者の考えを解説し、内容理解に時間をかけないようにする。 ※ 2つのモデルを比較しやすいよう拡大して提示する。 ※ 悪いモデルの途中にも、問いかけ・数字・キーワードを入れておき、それらを書き出しに使うことのよさを、色分けしながらつかませていく。 ※ 良いモデルの文末表現だけでなく、他の表現を考えさせていく。
① 問いかけから ② 数字から ③ キーワード(大切な言葉)から	(例) ①問いかけ 「～をどう思いますか」「～を知っていますか」 「～でしょうか」「～をどうしていますか」など
3. 書き出しの練習をする。 (話題「読書についてのアンケート」)	○ どのような問いかけになりそうか、どんな数字やキーワードを使って書いたら良さそうか隣同士で話し合わせる。 ※ 書き出しは1～2文程度とし、3つのポイントに沿った書き出しをできるだけ多く書けるようにする。
4. 自分の話題で書き出しを書く。	○ 書き出しがうまく書けない児童には、教師が個別に助言する。
5. 学習のまとめをする。 ア 代表児童の書き出しを紹介する イ 次時の学習内容を知る。	※ 工夫されている書き出しをプロジェクターで投影して全体に紹介し、そのよさを認めることができるようにする。

提示する2つのモデル 「給食を残さず食べよう」

**モデル① 「給食を残さず食べよう」(全文)**

ぼくは、二学期に入り、四年三組が給食をほとんど残さなくなったのはなぜか知りたくなりました。そこで、給食を全部食べるようになったわけについて、みんなにアンケートを取りました。

「四年三組が、九月は二十日、十月は二十一日給食を全部食べたということについてどう思いますか」という質問に対して、ほとんどの人が「うれしい」「がんばってよかった」という意見でした。

後のグラフを見てください。「給食を残さなくなっただけでなく、いろいろな意見がありますか」という質問に対しては、いろいろな意見がありました。多かったのは「残さな」という気持ちをもみんながもつようになった」ということでした。次に多かったのは「残したら給食の先生に悪いから」ということでした。その他の中には、「毎日完食!」という合言葉でみんながんばるようになった」という意見もありました。

「ぼくはこのアンケートをしてみた、みんなががんばろう」という気持ちをもつことができれば、むしろかしのこともこのクラスでも、みんなががんばって給食を全部食べるようになったらいいなと思いました。

**モデル② 「給食を残さず食べよう」について(書き出しのみ)**

みなさんのクラスでは、毎日給食を残さないよう努力をしていますか。(問いかけ)

「9月は20回、10月は21回」これは、私たち4年3組で給食を全部食べた日の数です。(始めに数字を使う)

「毎日完食!」4年3組では、この言葉を合言葉にして、毎日給食を全部食べるようがんばっています。(頭にキーワードを書く)

作文メモ

① きっかけ 内容 方法

二学期給食残していない

なぜ?

アンケート

・どう思うか

・なぜか

② アンケート結果①

「残さなくなったことをどう思うか」

一学期

六月…三日

七月…二日

九月…二十日

十月…二十一日

(結果) うれしい

がんばってよかった

③ アンケート結果②

「残さなくなったのはなぜか」

(結果) みんな残さないという気持ち

給食の先生に悪い

その他

・合言葉 毎日完食!

・減らしておく

④ 自分の考え

・みんなががんばる気持ち

・むずかしいこと

・他のクラスもがんばってほしい

練習学習で提示するメモとグラフ 「たくさん本を読もう」

作文メモ

① きっかけ 内容 方法

「読書の秋」

みんな読んでいるのかな

アンケート

・たくさん読むようになったか

・それはなぜか

・読むといいことはあるか

② アンケート結果①

「たくさん読むようになったか」

・ふえた 25人

・変わらない 5人

・へった 0人

③ アンケート結果②

「たくさん読むようになったわけ」

・読書の秋だから

・図書委員会が作った読書の木

・お母さんが本を買ってくれた

・楽しいシリーズの本を見つけた

・いろいろな理由

・きっかけがある

④ アンケート結果③

「本を読むといいことはあるか」

・新しい言葉が覚える

・知らないことが分かる

・いろいろな想像できて楽しい

・いいことがたくさんある

・あいたかいい気持ちは意外だった

⑤ 自分の考え

・本を読むといいことたくさんある

・きっかけ

・たくさん読むようになる

・みんなたくさん本を読もう